



カメムシ発生注意!!

雑草地において、斑点米の要因となる カメムシ類の生息密度が高いです。

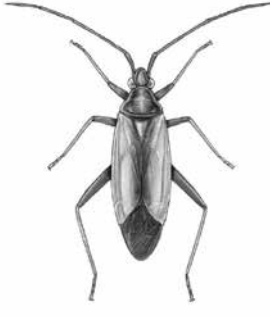
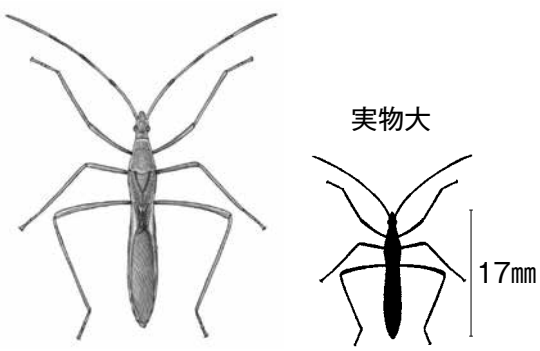
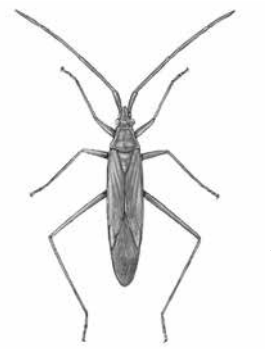
うまい・きれい かほく米づくり運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1～7	1. 播種量（うす播きの励行） 2. 育苗日数（健苗の育成） 3. 植付本数（細植の励行） 4. 栽植密度（優良茎の確保） 5. 適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上） 6. 田植え時期（早植えの防止） 7. 中干し・溝切り（遅発分げつの抑制）	
8	除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・ 7月上旬までの追加除草 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9	水管理 (飽水管理の徹底)	・ 中干し後から出穂までの約1か月の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理
10	刈取時期 (適期刈取りの励行)	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り

今月のポイント① カメムシ対策：畦畔や農道の除草と仕上げ防除の徹底

【斑点米の原因となるカメムシ類】

近年、飛翔性のクモヘリカメムシが県内でも越冬しています。また、その他の飛翔性斑点米カメムシ類についても平年より多くなることが予想されます。
実際にこのようなカメムシが発生しています。

アカスジカスミカメ	クモヘリカメムシ	アカヒゲホソミドリカスミカメ
		

【カメムシ防除の鉄則は、①に『適時の除草』、②に『適期防除』】

～①まずは、畦畔・農道の除草を～

畦畔や農道などの水田周辺の雑草地は、斑点米カメムシ類の生息地であり、繁殖地です。
畦畔・農道の除草を7月上旬までに行い、カメムシ類の発生源をなくしましょう。

～②次に、出穂後の適期防除を～

本田カメムシ防除は、水稻の出穂7～10日後と14～17日後の薬剤防除を徹底してください。

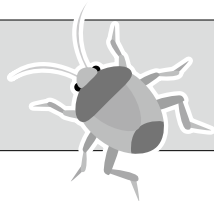
カメムシによる斑点米で等級落ちが確認されています!!

斑点米の防止は除草と防除の合わせ技!

農薬は使用基準を守り、農薬が飛散しないよう注意してください！

今月のポイント② 基幹防除を徹底し斑点米を追放しましょう！

営農の手引き17、38ページも参照ください。



〈粉剤体系〉

月		7月																															8月																																		
日曜日		6月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																							
曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月																							
生育ステージと防除	ゆめみつぼ										1回目 ビームトレモンセレン 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂3~1日前				出穂期											2回目 ビームスタークル 粉剤5DL 3~4kg/10a 出穂7~10日後								3回目 ダントツ 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂14~17日後																																	
	コシヒカリ	①イナゴ対策																															1回目 ビームトレモンセレン 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂3~1日前				出穂期											2回目 ビームスタークル 粉剤5DL 3~4kg/10a 出穂7~10日後								3回目 ダントツ 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂14~17日後											

- ①イナゴ対策：『トレボン粉剤DL』または『トレボン粒剤』を3kg/10a散布する
(散布時期 6月中旬～7月中旬)
- ②稲こうじ病対策：『Zボルドー粉剤DL (4kg/10a)』または『モンガリット1キロ粒剤 (1kg/10a)』を散布する
(近年発生しているほ場、散布時期 出穂14日前～10日前)
- ③紋枯病対策：『モンセレン粉剤DL (3～4kg/10a)』または『モンガリット1キロ粒剤 (1kg/10a)』を散布する
(近年発生しているほ場、散布時期 7月上中旬)

〈粉剤〉

- 1回目：ビームトレモンセレン粉剤DL：いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、イネツトムシ等
(散布後22日以上経過しないと収穫できません)
- 2回目：ビームスタークル粉剤5DL：いもち病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ等
(散布後8日以上経過しないと収穫できません)
- 3回目：ダントツ粉剤：カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ等
(散布後8日以上経過しないと収穫できません)

〈粒剤体系〉

月		7月																															8月														
日曜日		1水	2木	3金	4土	5日	6月	7火	8水	9木	10金	11土	12日	13月	14火	15水	16木	17金	18土	19日	20月	21火	22水	23木	24金	25土	26日	27月	28火	29水	30木	31金	1土	2日	3月	4火	5水	6木	7金	8土	9日	10月	11火	12水			
生育ステージと防除	ゆめみづほ				イモチエース スタークル粒剤 3kg/10a 出穂14～10日前														出穂期	キラップ粒剤 3kg/10a 出穂直後 ※イモチエーススター クル粒剤を散布した 場合は不要																											
	コシヒカリ													イモチエース スタークル粒剤 3kg/10a 出穂14～10日前															出穂期	キラップ粒剤 3kg/10a 出穂直後 ※イモチエーススター クル粒剤を散布した 場合は不要																	

- 〈粒剤〉
- イモチエーススタークル粒剤：いもち病、紋枯病、カメムシ类等
(散布後36日以上経過しないと収穫できません)
- キラップ粒剤：ウンカ類、カメムシ類 (散布後15日以上経過しないと収穫できません)
⇒粒剤は湛水状態で散布し、3～4日湛水状態を保ってください。

今月のポイント③ 飽水管理の実施で乳白粒や胴割粒の発生を防ぎましょう！

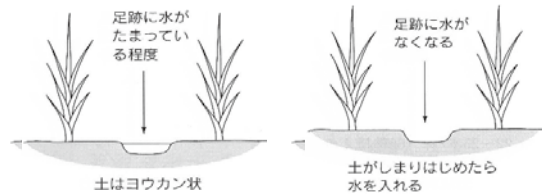
営農の手引き37、39ページも参照ください。

- ①出穂期まで間断通水を徹底。
- ②気温の高い日中の湛水（溜め水）は根を痛めるので避ける。
通水は夕方か朝方が地温低下でき効果的。
- ③フェーン現象の予報が出された場合は湛水して備える。
- ④集落ぐるみで計画的な水利用に努める（溝切りの溝に水を通すと、効率的です）
- ⑤刈取間際まで飽水管理を実施する。

（参考）なぜ？刈取直前まで飽水管理が必要なのか。

管内ではコンバイン収穫に備えて地面をかたくする為、早生の刈取期以降の通水が不足している傾向があります。作土深の浅いほ場では、干ばつ等の被害も発生しています。
登熟後半に通水せず、水管理がお天気まかせになってしまうと、品質・収量が低下します！

土壌水分の保ち方



飽水管理技術とは、湛水せずに土壌を常に湿潤状態に保つことで、根に酸素を供給し、株元の温度及び地温を下げ、高温障害を回避する。

- ①乳白粒は、降水量が平年より少ないと増加する。
②くず米重は、降水量が平年より少ないと多くなる。
試験研究によって分かっています。

収穫直前まで
しっかり飽水管理を
おこなう。

乳白粒防止対策Ⅱ3～4日おきの通水！ 日中の湛水はしない！

今月のポイント④ ゆめみづほの穂肥

目指そう!ゆめみづほの600kgどり 基肥一発肥料への追加穂肥の施用

近年の登熟期の高温による栄養凋落防止のため、追加穂肥の施用で登熟を向上させましょう。

葉色	施用時期	肥料名	施用量
5.0未満の場合	7月10日頃 (出穂1週間前～走り穂が出る頃まで)	BB有機入りいしかわライト 550 (15-5-10) または BBとれるぞう (15-5-10)	7～10kg /10a

- ※葉色が濃い圃場は施用しない。(ゆめみづほで葉色板5より濃い場合)
- ※玄米タンパク質含有率が高まるので、出穂期以降は絶対に施用しないこと。
- ★穂肥の時期が早すぎたり施用量が多すぎると籾数が過剰になり、未熟粒の発生や倒伏の原因となりますので、必ず適期に適量を施用してください。

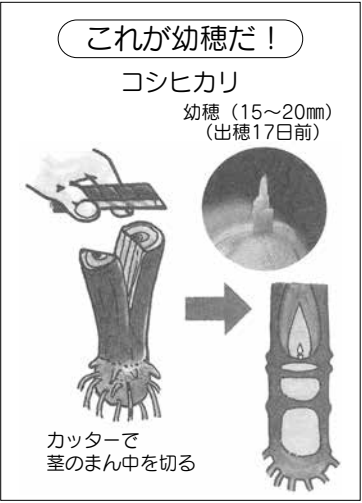
今月のポイント⑤ コシヒカリの穂肥（分施体系） 営農の手引き36、37ページも参照ください。

コシヒカリの生育状況（管内生育観測田2か所平均、6月23日調査）

草丈（cm）			茎数（本／㎡）			葉数		
本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
55.6	49.2	51.8	680	434	482	10.9	10.4	10.2

- 草丈：前年及び平年より短い
- 茎数：前年及び平年より少ない
- 葉数：前年並み平年よりやや多い

- 茎数が多いことから、7月10日頃まで中干しを継続しましょう。
- コシヒカリの出穂予想は、7月27～31日頃が見込まれますが、今後の気温が高く推移すると、早まる可能性があります。



分施体系コシヒカリの穂肥 ⇒穂肥の1回目は幼穂長15～20ミリを確認して施用してください。

	裸地のはっきり見えるほ場（葉色 3.5）		裸地の見えにくいほ場（葉色 3.5 ～ 4.0）	
	1回目 BB有機入り いしかわライト550 13kg/10a	2回目 BB有機入り いしかわライト550 13kg/10a	1回目 BB有機入り いしかわライト550 7kg/10a	2回目 BB有機入り いしかわライト550 13kg/10a
	幼穂長 15～20ミリ	穂肥1回目の1週間後	幼穂長 15～20ミリ	穂肥1回目の1週間後
平坦	7月9日～11日	7月16日～18日	7月9日～11日	7月16日～18日
山間	7月11日～13日	7月18日～20日	7月11日～13日	7月18日～20日

- ※裸地が見えず、葉色が濃い場合は1回目は施用せず、2回目の時期にBB有機入り いしかわライト550 13kg/10aを散布してください。
- ⇒収量や品質の低下につながるので、2回目の穂肥は省かないでください。

〈幼穂長と出穂前日数との関係〉

幼穂長（ミリ）	出穂前日数	穂肥施用の指定日
1～2	－23日	6日後
3～4	－20日	3日後
15～20	－17日	基準日

今月のポイント⑥ コシヒカリの穂肥（一発体系）

昨年、飽水管理を徹底したものの乳白粒が多くなったほ場では、窒素不足による稲体の凋落が考えられます。異常高温下で過度に葉色が低下したほ場では、出穂7日前に上乘せ追肥を行い登熟期間の稲体の健全を図りましょう。

※必ず葉色を確認し、葉色3.5以下の場合のみ穂肥を実施しましょう。営農の手引きの裏表紙に葉色見本がありますので、参考にしてください。

葉色	施用時期	肥料名	施用量
4.0未満の場合	7/19～21	BB有機入りいしかわライト 550 (15-5-10) または BBとれるぞう (15-5-10)	7～10kg /10a

※施用時期については出穂期を7/27頃を予定しています。

「かほく米トータルコスト低減運動」の実施中

目的：1 俵あたりにかかる生産コストを引き下げ、所得向上を目指すものであります。
目標総生産費を目指し、皆さんに実践のご提案をするものです。

No		項目	具体的なコスト低減の要因	概算低減率
労働費低減	1	流し込み追肥・導入	機械散布や手散布が不要で施肥時間の大幅短縮	追肥作業効率80%
	2	畦畔管理時間の削減	除草剤、抑草剤を組み合わせた畦畔管理による作業時間の削減	畦畔除草作業効率30%
	3	カメムシ防除タイミングの最適化	発生予察に基づく臨機・適期防除、畦畔除草の徹底	防除作業効率10%
生産性向上	1	水管理の徹底	生育状況と生育環境に適した水管理の徹底による品質の向上	品質・収量向上
	2	適正な施肥	生育状況に応じた上乘せ追肥による品質向上	品質・収量向上

コシヒカリ現地講習会日程

月日	曜	時間	集合場所
7月9日	木	午前 9時00分～	かほく市指江 （農）ファーム指江圃場 ※指江格納庫付近